

雄勝地域の

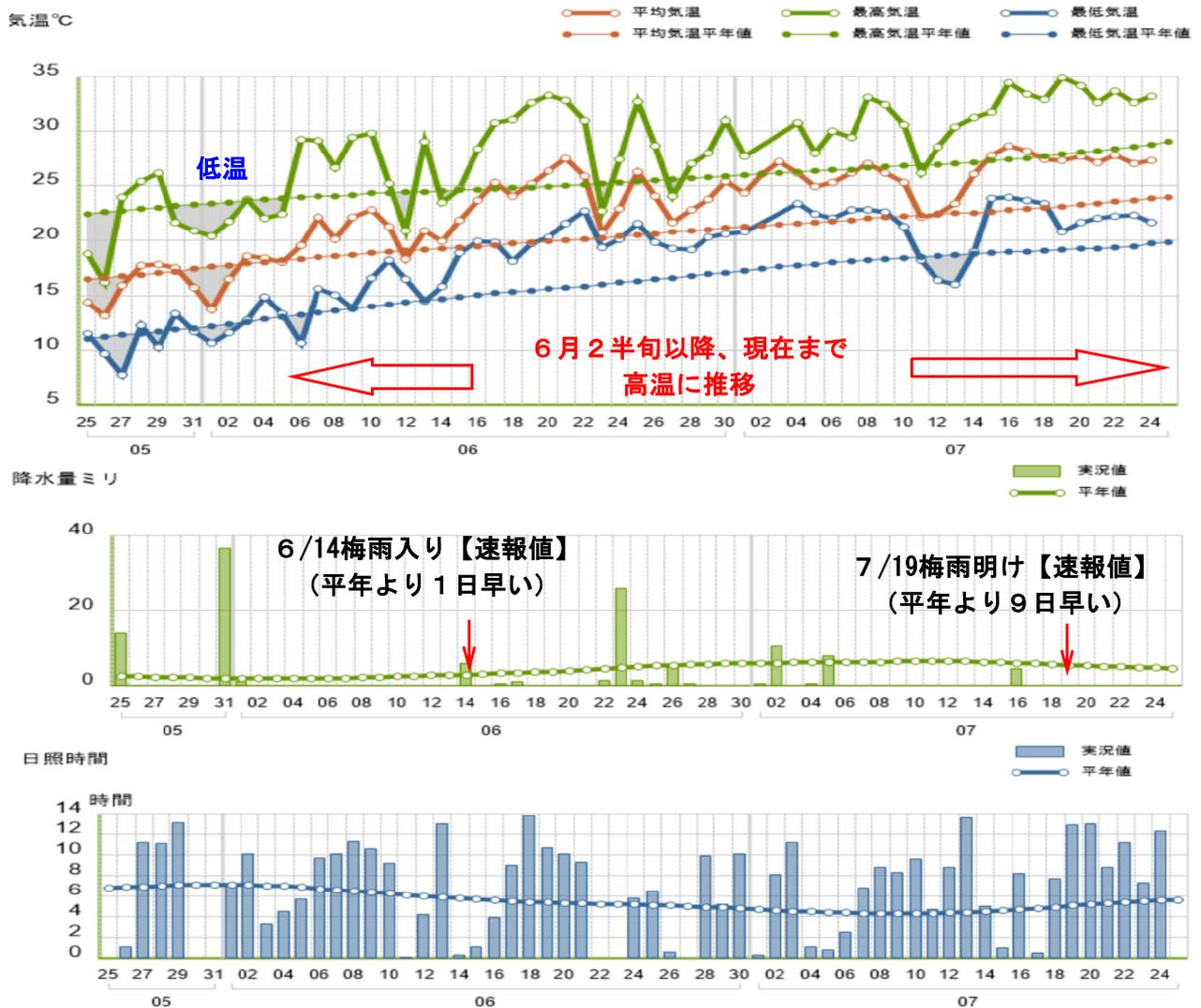
稲作だより

令和7年7月25日発行
 雄勝地域振興局農林部
 農業振興普及課
 TEL 0183-73-5180
 FAX 0183-72-6897

出穂期間近！きめ細やかな水管理で登熟促進を。

～斑点米カメムシ類多発に注意。雑草管理を徹底しましょう～

【これまでの気象経過】（アメダス湯沢：5月25日～7月24日）



	平均気温 (平年差)	積算降水量 (平年比)	積算日照時間 (平年比)
5月上旬	13.3℃ (+0.1℃)	41.0mm (158%)	57.2h (90%)
5月中旬	16.2℃ (+2.1℃)	35.0mm (123%)	54.2h (100%)
5月下旬	15.8℃ (±0℃)	55.0mm (185%)	49.3h (71%)
6月上旬	19.2℃ (+1.3℃)	1.0mm (6%)	81.7h (122%)
6月中旬	22.7℃ (+3.5℃)	7.5mm (20%)	66.2h (112%)
6月下旬	24.1℃ (+4.1℃)	35.5mm (69%)	47.4h (96%)
7月上旬	25.9℃ (+4.7℃)	19.5mm (38%)	57.5h (130%)
7月中旬	26.1℃ (+3.9℃)	4.5mm (8%)	75.4h (168%)
7月5半旬	27.3℃ (+3.6℃)	0.0mm (0%)	39.6h (144%)

【生育概況】

7月25日に実施した定点調査結果（あきたこまち8か所）では、草丈85.2cm（平年比112%）、茎数430本/㎡（同比89%）、葉数12.7葉（同差+0.3葉）、葉色（SPAD値）37.5（同比92%）となっています。

ほとんどのほ場で穂ばらみ期を迎え、平年と比べて草丈は長く、茎数は少なく、葉色はやや淡く推移しています。葉数は平年よりやや多く、ほ場によっては増葉が確認されているところもあります。

一部のほ場では走り穂が見られるなど、出穂間近のほ場が多くなっており、出穂期は平年（8月2日）より早まると見込まれます。

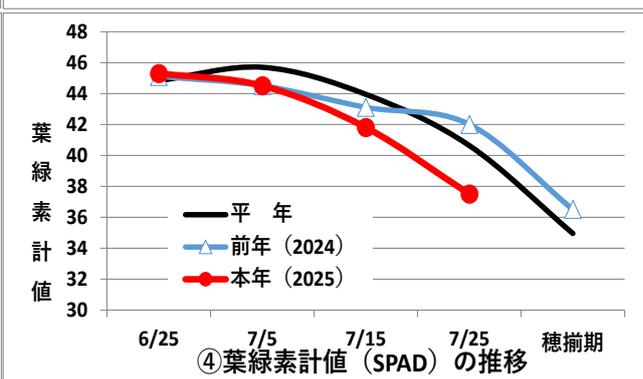
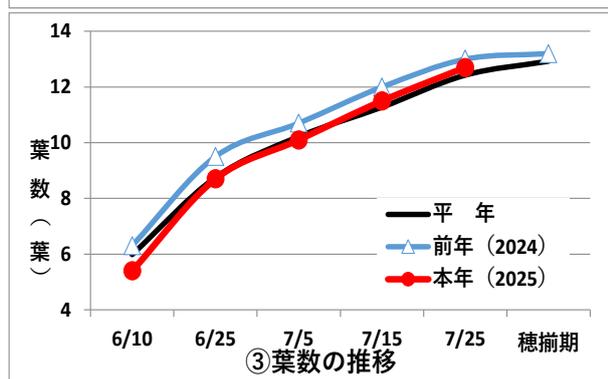
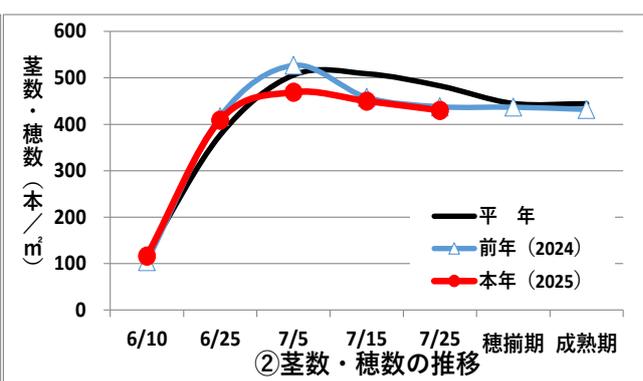
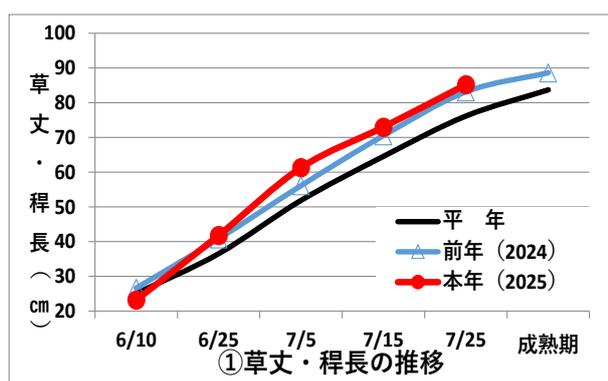
	6月10日調査結果			6月25日調査結果				7月5日調査結果			
	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
本年	23.2	116	5.4	41.7	406	8.7	45.3	61.3	469	10.1	44.5
平年	25.1	119	6.0	36.6	377	8.8	44.8	51.9	506	10.2	45.7
平年比	92%	97%	-0.6	114%	108%	-0.1	101%	118%	93%	-0.1	97%
前年	26.6	104	6.3	40.8	416	9.5	45.1	56.1	527	10.7	44.5
前年比	87%	111%	-0.9	102%	98%	-0.8	100%	109%	89%	-0.6	100%

	7月15日調査結果				7月25日調査結果			
	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
本年	73.0	450	11.5	41.8	85.2	430	12.7	37.5
平年	64.6	509	11.3	43.9	76.2	483	12.4	40.6
平年比	113%	88%	+0.2	95%	112%	89%	+0.3	92%
前年	70.5	458	12.0	43.1	83.1	438	13.0	42.0
前年比	104%	98%	-0.5	97%	103%	98%	-0.3	89%

水稲定点調査結果（雄勝管内：あきたこまち8か所）

※田植日平均：本年5月22日（平年5月22日、前年5月21日）

※平年値は過去10年間の平年値



【当面の主要な技術対策】

1 今後の水管理について

管内では多くのほ場で穂ばらみ期を迎え、中には走り穂が見えているほ場もあります。

出穂～登熟初期にかけて、葉色の低下や葉の枯れ上がり、根の機能減退を防止するための水管理に注意しましょう。

○ 出穂まで

幼穂のスムーズな発育と一穂粒数の適正確保には、幼穂形成期以降の土壤水分が適切に保たれていることが重要です。きめ細かな間断かん水を行い、高温時や強風時は、入水して稲体の消耗を防ぎましょう。

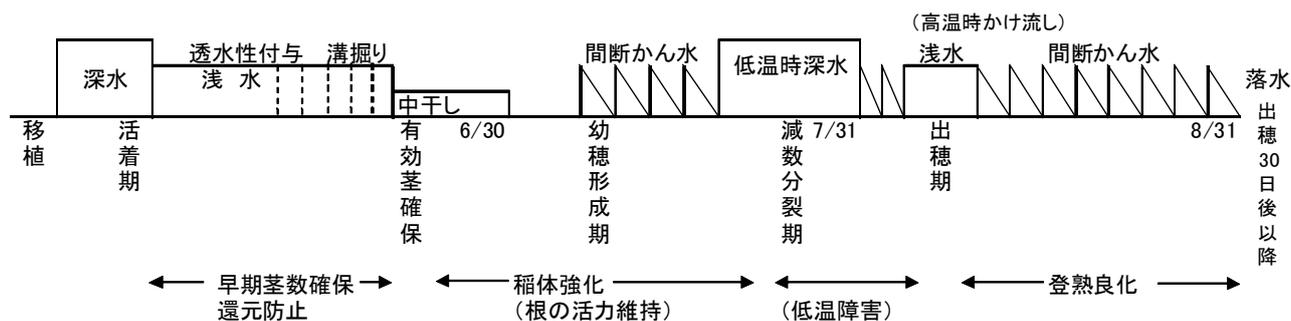
○ 出穂期

出穂の時期は、稲が最も水を必要としますので、出穂・開花したら10日間は湛水状態^{はなすい}（花水）として、水を切らさないように管理します。

○ 登熟初期

間断かん水を基本としますが、気温が30℃以上になる場合は、間断かん水を行い地温を下げ、根の機能低下を防ぎます。用水を十分に確保できないほ場においては、溝切り跡への通水により土壤水分を補充し、夜間の地温低下を図ります。

また、フェーン現象等で乾燥した風が強い日は、湛水状態を保ち、稲体の保護に努めましょう。



<水不足等で用水の確保が難しい場合>

- ・溝切り跡への通水等により、土壤水分を補充し、夜間の地温低下を図ります。ただし、穂揃期の前後は稲の吸水量が大きいため、かん水不足で稲が萎れないよう注意しましょう。
- ・用水が地域全体に行き渡るよう、こまめな水回りを行い、ほ場全体に水が行き渡ったら速やかに水口を止めます。また、漏水がないよう畦畔の補修に努めましょう。
- ・地域農家や関係機関と協力して節水管理に努め、入水時間を申し合わせるなど、計画的な用水の供給に努めましょう。

2 斑点米カメムシ対策

農作物病虫害防除対策情報第7号（令和7年7月18日：病虫害防除所発表）では、畦畔などに出穂しているイネ科雑草があるほ場を中心に、斑点米カメムシ類の発生量が多くなると予想されています。2回の薬剤防除を基本に、畦畔及び水田内の雑草管理には万全を期してください。



【アサジガカメムシ】



【アカヒゲホソドリカメムシ】

<今後の防除対策>

①畦畔除草の徹底

アカスジカスミカメはイネ科雑草の穂に飛んできて産卵し、増殖します。1回目薬剤散布（出穂期10日後頃）の7日後までに畦畔・農道の草刈を行い、発生源を絶ちましょう。

②適期薬剤散布

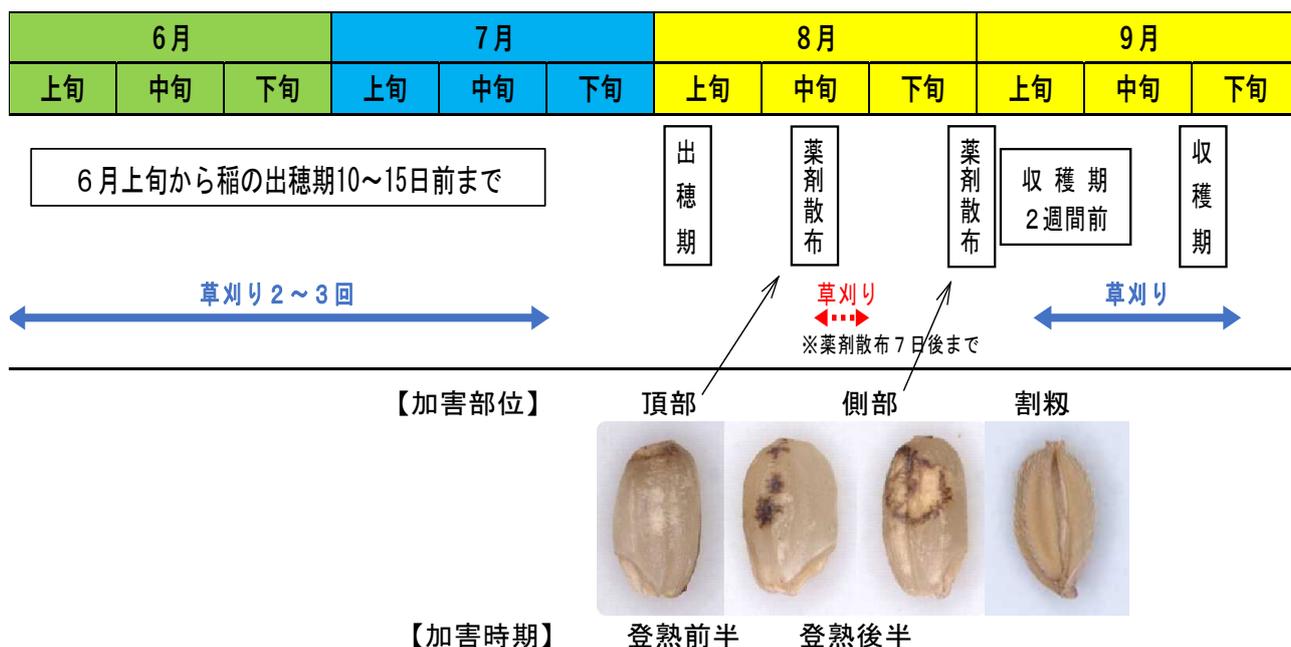
・ 1回目茎葉散布剤：出穂期10日後頃

スタークル粉剤DL・液剤、アルバリン粉剤DL

・ 2回目茎葉散布剤：出穂期24日後頃

キラップ粉剤DL・フロアブル、エクシード粉剤DL・フロアブル

※エクシード剤は、ウンカ類にも効果が高い。



【向こう1か月の天候の見通し（7月26日～8月25日）】：仙台管区气象台、7月24日発表

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。平年と比べ晴れの日が多く、平均気温は高い確率が80%、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多い確率がともに40%です。

- 1週目（7/26～8/1）：気温は、高い確率が80%です。
- 2週目（8/2～8/8）：気温は、高い確率が80%です。
- 3～4週目（8/9～8/22）：気温は、高い確率が60%です。



○秋田県農薬危害防止運動実施中！
「使用前、周囲よく見て ラベル見て」

○農作業事故・熱中症に注意！

今年も暑い夏が予想されます！

農作業中はこまめに水分・塩分を補給するなど、熱中症には十分に注意してください。

次号の発行は8月下旬の予定です。